

第10回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日時 令和2年3月12日 ～ 令和2年3月24日

対象者 高知工科大学	佐藤教授
名古屋大学大学院	水谷教授
静岡大学	原田准教授
国土技術政策総合研究所	加藤海岸研究室長
静岡県交通基盤部	太田河川砂防局長
中部地方整備局河川部	川瀬河川調査官
中部地方整備局静岡河川事務所	川上事務所長

<議事>

○住吉工区における粘り強い海岸堤防の構造検討について

- ・ A区間は危険側に評価しても十分な粘り強さを保持できているため、天端被覆工のみの補強で問題ない。
- ・ B区間、C区間について、次回改良対策案で検討（実験）することに問題はない。
- ・ C区間については、松により背後を守る効果が期待できると思われるため、既存の松を活かした対策案も検討したほうが良い。

○新たなモニタリング手法の導入検討について

- ・ グリーンレーザー測定の結果についても整理したほうが良い。
- ・ SAR画像を用いた汀線位置については、粒径が粗い海岸ほど精度が良いという結果がでているが、概ねの傾向をとらえるなどの目的であれば、有効ではないかと考える。
- ・ 画像解析による粒度試験結果について、画像は2次元、ふるい分けは3次元と異なる次元となるため、高高度が必ずしも良いとは限らない。その当たりを踏まえた上で、概ねの粒径をとらえるものとしては有効であると考え。
- ・ 画像解析による粒度試験結果について、実際にカウントされている礫の数によって、実際の粒度分析の検体と画像解析のカウント数が異なり、結果に影響がある可能性がある。
- ・ モニタリング手法の適用性評価については、調査目的や対象区間、着目する期間（短期的、長期的）によって評価が異なることに留意する必要がある。
- ・ 精度の評価については、「数字としての測量精度」と「管理上必要な精度」の2つの観点があるが、「管理上必要な精度」に基づいた評価が必要と考える。
- ・ 海岸で一番モニタリングが必要なものは「土砂収支」であるため、「土砂収支」を測るための視点等を整理してみてもどうか。

<その他>

○台風19号による越波及び被災状況について

- ・台風19号は計画波を超える大きな波浪であったことから、どのような地形変化が生じたか整理したほうがよい。